

2021 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 アンデリユー・ジッツマン	職名 講師	学位 修士 (言語学) (マクウォリ大学 2008 年)
-----------------	-------	------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会言語学	異文化コミュニケーション アイデンティティ

研 究 課 題
オンライン学習環境の認知度 ブレンド型学習 アイデンティティの確立

担 当 授 業 科 目
英語コミュニケーション I, II 英語ディスカッション I ライティング基礎 パラグラフ・ライティング エリア・スタディ II 専門演習 I, II 卒業研究 欧米文化交流 B

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【英語コミュニケーション】 このコースは、生徒の英語コミュニケーション能力を、より自然で、スクリプトのない形に向上させることを目的としています。この目的を達成するために、このコースでは様々な社会的コミュニケーションルールを提示し、重要な練習の機会を提供します。
授業科目名【ライティング基礎】 何年も英語を書いても、生徒たちが問題とする基本的な要素はたくさんあります。そこで、基礎的な部分を強化し、エッセイやリサーチレポートなどの大規模なライティング課題に備えられるように、地道なサポートを行いました。
授業科目名【パラグラフ・ライティング】 アイデアをパラグラフ形式にまとめることは簡単なことのように思えますが、多くの生徒がこれをうまく行うことができませんでした。このコースでは、様々な種類のパラグラフに焦点を当て、その知識をエッセイライティングに移す方法を説明しました。パラグラフからエッセイへの移行は、多くの生徒が苦手とする問題であり、このコースはそれを修正することを目的としています。

授業科目名【エリア・スタディ II】 隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップです。このコースでは、ASEAN の国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察しました。最初の学期をオンラインで過ごした経験が、学生のオンラインでのプレゼンテーションスキルを高め、コースを成功させることができました。
授業科目名【欧米文化交流 B】 このコースは、欧米文化を紹介し、対象国との交流の機会を提供することを目的としています。COVID-19 の関係で、海外研修も、用意されていた国内代替オプションも実施できなかった。コース期間中、オンラインであったため、受講生はコースが提供する通常の特典を受けることができず、残念な思いをした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)	1994～現在に至る

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) EFL Students' Attitudes Towards the Effectiveness of Emergency Remote Teaching Programs	共	2022 年 3 月	西南女学院大学紀要	新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため遠隔授業が突然導入され、各大学では慣れない授業形態に対応することを強いられた。経験もスキルも支援も乏しい中、教員も学生もオンライン環境で授業を実施または受講する環境に適応しなくてはならなかった。本稿ではこの変化がもたらした影響について考察する。特に日本の英語学習者達が遠隔授業をどれほど効果的であると感じたか、その向き合い方に注目する。
(翻訳)				

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) Student Reflections of Online Presentations	単	2021年5月	全国語学教育学会第20回 Pan-SIG Conference	この発表では、オンラインクラスでプレゼンテーションを行う学生が遭遇する課題に焦点を当てています。従来の授業では学生にとって非常に馴染みのある活動ですが、この活動をオンライン環境に移行することで、聞き手と発表者の両方に新たな課題が生じました。学生から寄せられた詳細なフィードバックは、アクティビティ後の振り返りアンケートの機会サンプルから得られました。学生の個人的な反省は、自分のプレゼンテーションを改善する方法だけでなく、他の学生がオンラインまたは教室でこの活動を改善するのに役立つ方法についても言及しています。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学生委員 （副委員長） 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

FD 部門委員 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

職員研修委員 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

教育経費予算配分委員 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

人文学部将来計画委員 2021 年 4 月 1 日～2021 年 11 月 30 日

英語学科カリキュラム構成委員（委員長） 2022 年 2 月 21 日～2022 年 3 月 31 日

学科オリエンテーションイベントの企画検討を行う。

English Camp 企画検討を行う。

第三回 KANAME 杯委員

第 2 回 FD 研究会に発表を行う。

ハロウィンイベントの企画検討を行う。

クリスマスインテンシブの企画検討を行う。

ZION Cup（スピーチコンテスト）の企画検討を行う。

第 2 回学科 FD の司会者